



Point 01
搦手門跡 (三ノ郭)

搦手門跡は、裏口を意味します。左右にのびる土塁は3m程ずれていることがわかります。外側から内側に向かって上り坂になっていますが、戦国時代はもっと急角度であり、外から中を見通すことが難しい構造であったと考えられます。



Point 02
正站門跡【葦土塁】 (三ノ郭)

葦とは、ついたてのことです。葦土塁とは目隠しのための土塁を意味します。葦土塁は形や周辺の遺跡の状況（古墳群が周囲にあること）から、円墳を利用している可能性があります。



Point 03
正站門跡【木橋】 (三ノ郭～西ノ郭)

発掘調査によって発見された戦国時代の橋脚跡をもとに、昭和56年3月に復元したものです。木橋は防御のため、外側（西ノ郭側）から内側（三ノ郭側）に向かって上り坂になっています。



Point 04
畠山重忠像 (二ノ郭)

昭和4年に地元の有志の方々が作りました。竹を芯にした「竹筋コンクリート」製です。直垂をまとい、烏帽子をつけた重忠像は鎌倉の方を向いて立っています。



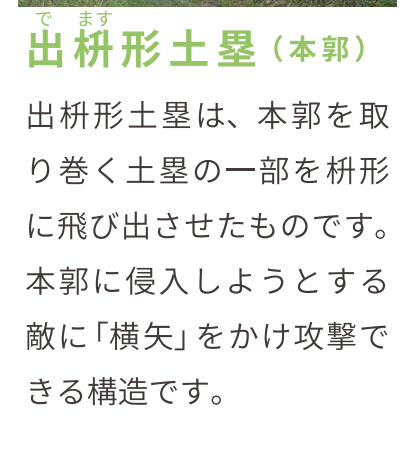
Point 05
出柵形土塁 (本郭)

出柵形土塁は、本郭を取り巻く土塁の一部を柵形に飛び出させたものです。本郭に侵入しようとする敵に「横矢」をかけ攻撃できる構造です。



Point 06
生門跡 (本郭)

本郭は東西約150m、南北約60mの長方形をしており、約9千㎡の広さがあります。東側の土塁は一部途切れており、生門跡と伝えられています。本郭への出入口のひとつになります。



Point 07
建物跡 (三ノ郭)

発掘調査で確認された柱穴をもとに復元したものです。椅子のように見える杭は柱を表現しています。少し離れて見える穴は、井戸跡を表しています。